



◆ 岩永 義仁 議員

- 問** 転貸者の把握状況は。
- 答** 違法行為は認められないので返却させる。
- 問** 転貸者又貸し主への対応は。
- 答** 専門の審議会で承認されれば正規契約者に対して有償譲渡していく。
- 問** これまで払い下げを基本として検討してきただが今後は。
- 答** 約1千万円。
- 問** 町営住宅に関して現在までに10件の訴訟を行なっている。これまでの費用総額は。
- 答** 現在74件を転貸として把握しており未返却である。
- 問** 退去の勧告により退去する住民への新居所移行等のケアは。
- 答** 現在行なっていないが相談があれば対応する。
- 問** 空き家になった住宅の再利用は。
- 答** 空き家となる住宅の戸数が確定した後には再利用方法について専門の審議会で検討していく。
- 問** 退去期限が6月末となっているが再延長は可能か。
- 答** 相談に応じる。



スマイルげんちゃん学習会

小中学校の学習環境は 拡大できればと考える

教育長

- 問** 現在は中央公民館一箇所のみでの実施であるが、中学校の空き教室等を利用して拡大してはどうか。
- 答** 将来的には中学校区への拡大、さらには各公民館単位にまで拡大させたい。
- 問** 町内の小中学校で算数、数学、英語において習熟度別少人数制の授業が実施されているが、学校ごとに実施学年がバラバラである。学べる機会の公平性を確保できないか。
- 答** 町内の小中学校で算数、数学、英語において習熟度別少人数制の授業が実施されているが、学校ごとに実施学年がバラバラである。学べる機会の公平性を確保できないか。
- 問** 学習の基本は国語であると考えますが、国語でも実施してはどうか。
- 答** 国語については読書指導の充実に重点をおいている。

町長

町営住宅（改良住宅） 政策は 住宅を有償譲渡していく



キッズコーナーのイメージ

町長

空き家バンクの開設を進める

- 問** 特定空き家の実態把握は。
- 答** 平成27年12月の時点での空き家は413軒。うち管理不十分な空き家は94軒と2割強あり、所有者に啓発・注意喚起を行っている。
- 問** 空き家等の有効活用策は。
- 答** ホームページを開設して、斡旋・紹介が出来る体制を年末までに構築する。専門家の意見が必要な特定空き家の判断や活用のためにも、協議会を立ち上げていく。



◆ 三田 正敏 議員

町長

女性活躍の施策に取り組む

- 平成27年の国勢調査において、養老町の人口は2万9036人で3万人を割込んでいる。5年前の調査時より2296人減少した。
- 問** 定住に向けた子育て世代に受け入れられる歯止め施策は。
- 答** 子育て世代の女性が妊娠・出産・育児を経ても離職することなく、継続して就労でき、また仮に離職しても再就職しやすい環境を整備し、若い女性の移住定住を促進する。女性のキャリアアップの為に講座の開催をする。また移住・定住施策については、広域で取組むことでより大きな効果が得られるため西濃圏域全体で連携しながら、女性が活躍できる組織づくりのためのセミナーを開催するなど支援していきたい。
- 問** 中央公民館に「子育て応援の場」の開設は。
- 答** 中央公民館1階の女性サロン及びロビー周辺に、授乳室・キッズコーナー、また、階段昇降機の整備を地方創生拠点整備交付金を受けて施設整備をする。